

ハンドスプレーを用いた殺虫剤散布によるビワキジラミの防除

松山尚生^{1a}・井口雅裕²

¹和歌山県果樹試験場

²和歌山県果樹試験場かき・もも研究所

Insecticide application with a hand-held sprayer at the time of loquat fruit bagging against loquat psyllid,
Cacopsylla biwa Inoue

Naoki Matsuyama^{1a}, Masahiro Iguchi²

¹Wakayama fruit tree Experiment Station

²Lab. of Persimmon and Peach, Wakayama fruit tree Experiment Station.

摘要

ビワの新害虫であるビワキジラミは、主に幼虫が排出する甘露に糸状菌が発生して激しいすす症状を引き起こす。本種は、摘果と袋掛けが行われる3~4月に幼果で急増するため、袋掛け前に徹底的な防除を行う必要がある。しかし、従来行われている摘果・袋掛け前の動力噴霧機による殺虫剤散布では果実同士の込み合いなどにより、その隙間に生息する本種への効果が不安定である。そこで、まず摘果を行い、その直後にハンドスプレーで殺虫剤を散布し、続けて袋掛けを実施する防除法(ハンドスプレー法)を考案した。本法は従来の防除と比較して作業に要する時間は増加するが、被害が大きく抑えられ高い防除効果が認められた。また、殺虫剤の使用量を98%程度削減することができた。

^a現在：和歌山県農林水産部農業生産局鳥獣害対策課